

第二主日礼拝

午前 10:30-11:30

(YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 詩篇 121 篇 5-6 節 (旧約 1070)

賛 美 わがたましいを愛するイエスよ (インマヌエル 62)

交 読 詩篇 119 篇 97-112 節 (旧約 1065)

主の祈り・使徒信条

聖書朗読 使徒の働き 5 章 33-42 節 (新約 242)

特別さんび ワン・ボイス (ひむなる 168)

菅野ファミリー

牧者公祷 (換気を行います)

説 教

『よく気をつけなさい』

松井 元始 牧師

応答のとき

賛 美 主に任せよ 汝が身を (インマヌエル 499)

感謝祈禱

頌 栄 父・御子・御霊の (インマヌエル 7)

祝 祷

後奏・黙祷

*

*

*

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉

明兄

〈奏楽〉

牧子師

〈受付〉

〈聖書朗読〉

司会者

〈感謝祈禱〉

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6

Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: immanuelojichurch@gmail.com

郵便振込: 記号 00180-8 番号 11785

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『よく気をつけなさい』 (使徒の働き 5 章 33-42 節) 2023.8.13.

<はじめに> 最高法院に集まった者たちは、使徒たちの弁明を聞いて怒り狂い、殺意をたぎらせませす(33)。自分たちの権威と面子を踏みにじり、イエス殺害の責任を負わせたからです(28)。しかし、彼らの殺意に待ったがかりです。律法の教師ガマリエルが議場に再考を促したのです(34)。

I ガマリエルの提案(35-39)

①二つの実例(36-37)

使徒たちを議場から出させてから、ガマリエルは議員たちに、テウダとユダがそれぞれ起こした蜂起が、首謀者も追随者も雲散霧消した顛末を思い起こさせました。

②手を引き、静観せよ(38-39)

苛立つ余り、自ら手を下そうとせず、むしろ使徒たちの動きがどのように推移するかを静観するようにと彼は勧めます。この根底には、この世の中と歴史を司り、そこに働かれる神がおられる、という歴史観があります。私たちはどう考えて生活しているのでしょうか。

③二つの可能性(38-39)

もしその計画・行動が人間から出たものなら、やがて自滅するでしょう。しかし、もしそれが神から出たものなら、それを滅ぼすことはできず、むしろこちらが神に敵対する者になりかねない危険もはらんでいます。だから、よく気をつけなさい(35)、と彼は警告したのです。

II 提案を受けて(40-42)

①議員たち(39-40)

ガマリエルの提案に従い、議場に使徒たち呼び入れて、鞭で打ち、重ねてイエスの名によって語ることを禁じてから、釈放しました。彼らが鞭打ちしてから釈放したのは、自分たちは間違っていない、と自負していたからではないのでしょうか。

②使徒たち(41)

使徒たちは脅しの鞭を与えられました(IIコリント 11:24、申命記 25:3)。イエスが受けた鞭はそれ以上で、死刑囚への見せしめでした。彼らは、痛み苦しみ辱められる中で喜びも感じていました。主イエスをより近く感じ、慰めと希望を受け取ったからです。

③なおも宣べ伝える(42)

イエスの名で語るな、と三度禁じられ、これだけ傷めつけられたにもかかわらず、彼らはなおも語り続けます。使徒たちは、人に従うよりも神に従う、と宣言したとおりです。議員たちと使徒たち、どちらに神は目を留めて、支持加担されるでしょう。

III 自分を探る

①秘密の出所(33-39)

使徒たちを追い出しての会話が、なぜ本書に記録されているのでしょうか。ガマリエルの門下生の一人、サウロ(のちの使徒パウロ)が出所の可能性大です(22:3)。本書の記者ルカは、単なるスクープ・暴露として記録したのでしょうか。

②歴史は語る

ルカが本書を書いたのは、この出来事から約 30 年後です。そのときイエスを信じる者たちはどうなっていたでしょう。ガマリエルの提案と照らし合わせるなら、イエスの福音は人間から出たものなのでしょうか、それとも神から出たものなのでしょうか。なぜそう言えるのですか。

③今も聖書は語る

ガマリエルの提案は大変穏健で賢明です。それは箴言 16:1-3、3:5-7 を思い起こさせます。私たちは、自分を優先して神様さえ押しつけてしまっていないでしょうか。一歩引いて神様に信頼し、自分の大切なものを御手に委ねるとき、神様はそれを確立されます。

<おわりに>

神を味方につけ、神側に着くことが最善であるということは、誰でも直感できます。ならば、その神に自分の計画・行動・願望を話し、相談し、その指導に従うことに具体的に進むべきです。それを阻むのが、神よりも自分が正しいとすることです。その誤解と過ちから救うためにイエスは来られ、呼び掛け、手を差し伸べておられます。(H.M.)